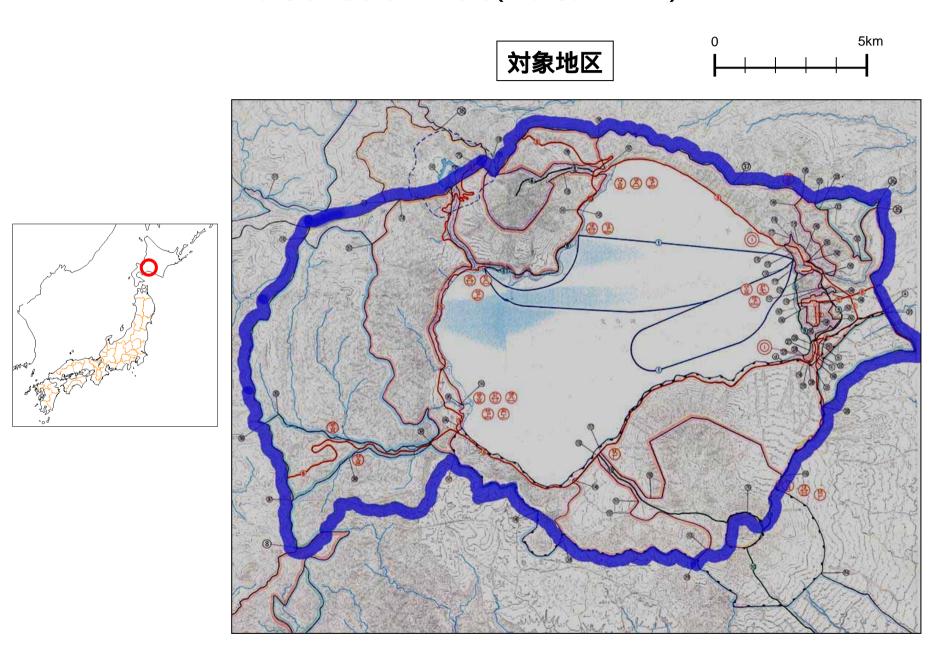
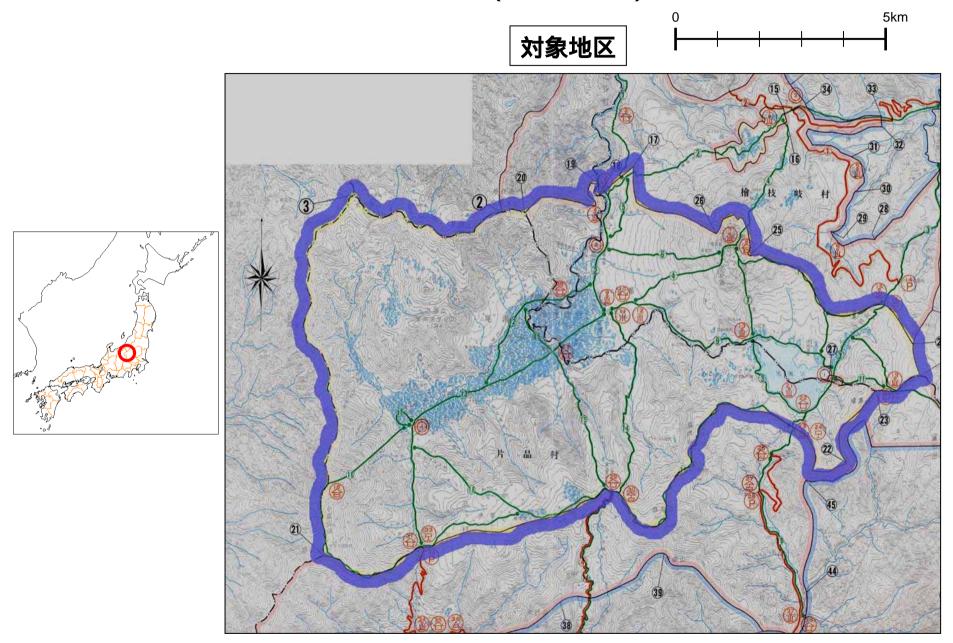
## 支笏湖・尾瀬・大台ヶ原地区の概要

		支笏湖地区 (支笏洞爺国立公園)	尾瀬地区 (日光国立公園)	大台ヶ原地区 (吉野熊野国立公園)
	位 置	北海道千歳市、苫小牧市、恵庭市、札幌市	福島県南会津郡檜枝岐村、群馬県利根郡片品村、 新潟県北魚沼郡湯之谷村	奈良県吉野郡上北山村、三重県多紀郡宮川村
爿	2区の面積 (今回調査対象)	約22,800ha (支笏湖7,840 ha)	約 8690 ha	703.27 ha
	国有地	環境省 29 ha 林野庁 約15,000ha 公有水面 7,840ha	環境省 9 ha、 林野庁 2405 ha、 公有水面 180 ha	環境省 671.55 ha(東側に国有林が隣接)
	公有地			奈良県 31.72 ha
	私有地	-	東京電力 6090 ha	-
概	況	我が国を代表するカルデラ湖である支笏湖と、外輪山からなる地域。周辺は、火山活動の影響を受けた森林地帯が広がり、低地には広葉樹林、上部には針葉樹が広がり、原生的な雰囲気を醸し出している。	中川取入の一部にのる尾瀬本原及の尾瀬石を取り出り一市に、夕塚は同	紀伊半島の中心に位置する隆起準平原、ブナ、トウヒなどの 自然林が広がっていたが、近年はシカの食害等による樹木の 枯死やササ原の拡大が目立ってきている。 吉野熊野国立公園 の主要な利用拠点の一つ。
利用形態		通年をとおして湖沼や特徴的な外輪山の風景や周辺に点在する温泉を楽しむとともに、夏は登山、キャンプやボートなどの利用が多い。また、湖畔には野鳥の森が整備されており、野鳥観察も盛んである。近郊に控える大都市の札幌や千歳市に近いため、多くの利用者が訪れる。	主として登山、ハイキング、自然観賞の場として活用されている。尾瀬沼や湿原には最低1時間弱歩かないと到達できないが、首都圏に近いこともあり、多くの利用者が訪れている。	主として登山、ハイキング、自然観賞の場として活用されている。山上までドライブウェイが通じていることもあり、近畿圏からの日帰り利用が中心となっている。
管理形態の概要		基本的に、施設の管理については各事業執行者が行っているが、環境省直轄事業(博物展示施設)については、自然公園財団への管理委託を行っている。	基本的に、施設の管理については各事業執行者が行っているが、一部尾 瀬保護財団や民間業者への管理委託を行っている。	基本的に、施設の管理については各公園事業執行者が行っている。
	年間利用者数	(支笏湖集団施設地区の利用者数)	(カウンターによる利用者実数)	(大台ヶ原集団施設地区の利用者数)
	平成10年度	1,453千人	455.4 千人	243 千人
	11年度	947千人	425.8 千人	258 千人
	12年度	885千人	428.4 千人	223 千人
	13年度	914千人	448.0 千人	247 千人
	14年度	918千人	409.9 千人	252 千人
	宿泊収容力数	2250 人 (集団施設地区内の宿舎の収容力)	約 3,000 人 (宿舎(山小屋)及び野営場の収容力)	400人 (集団施設地区内の宿舎の収容力)
	施設量			
	歩 道	11.83 k m (北海道、千歳市、札幌市)	81 km(群馬県、福島県、尾瀬林業(株))	1 . 2 km(環境省、奈良県)
	公衆トイレ	15棟、6ヶ所(直轄10,北海道2、市町村2)	14地区(環境省2<管理は尾瀬保護財団>、群馬県2<管理は尾瀬保護財団と民間業者>、福島県1<管理は檜枝岐村>、檜枝岐村2、尾瀬林業(株)6、民間1)	2棟、2ヶ所(奈良県)
	宿舎	8軒、 収容力計1507人	22軒、収容力計2,445人	2軒、収容力計219人
	野営場	4ヶ所(北海道1、千歳市2、札幌市1)	ヶ所、計210張(環境省2<うち1は民間が管理>、尾瀬林業(株)1	-
	駐車場	2.75ha、 収容数計994台 (北海道、札幌市、自然公園財団)	7ヶ所、収容数計2,916台 (地区外含む) (檜枝岐村2、尾瀬林業(株)2、尾瀬林業(株)+片品村1、民間2)	2.4ha、収容数計217台(奈良県)
	博物展示施設	1カ所(環境省<管理は自然公園財団>)	2 ヶ所 (環境省、群馬県<管理は尾瀬保護財団>)	1ヶ所(環境省、奈良県)
	主な到達車道	国道276号線、国道453号線、道道16号線	国道352号、国道401号、群馬県道63号、福島県道1号	県道40号(大台ヶ原ドライブウェイ)

## 支笏洞爺国立公園(支笏湖地区)



## 日光国立公園(尾瀬地区)



## 吉野熊野国立公園(大台ヶ原地区)



